

# 市公連だより

第30号  
 発行 熊谷市公民館連合会  
 編集 熊谷市公民館事務局長 山川幸男  
 印刷 熊谷市公民館  
 電話 048-523-0895

## 公民館紹介

### 元気づくりの手助け

秦公民館長

荻野 俊行

秦公民館は、熊谷市の最北

東部にあります。地域は利根川右岸に沿って、その大河に流れ込む福川の右岸にも地域を有し、約五平方キロの所です。風光明媚な土地柄で、利根川河川敷にはグライダー滑空場・サッカー場・群馬県とを行き来する葛和田渡船。また、荻野吟子生誕の地でもあり、生家跡には荻野吟子記念館があります。夏には、大杉(あばれ)神輿の渡御があります。福川右岸には長井神社があり、社を囲む木々が杜をつくっています。

館は、以前養蚕経営モデル事業の一環で、共同飼育所(S29～S48)がありました。現在の建物は、昭和50年に、秦公民館(老人憩いの家め



餅つき



しめ飾り

ぬま荘)として建設、後に改築され現在に至っています。学習グループは5団体(登録者数は72名)で、毎週積極的な活動をしています。公民館主催の事業が13、参加者数は9百名ほどです。

この事業とは別の、秦小学校区連絡協議会主催の行事を紹介します。夏休みに行われる「秦つ子夏祭り・お泊り会」は、毎年2百名くらいの参加があります。秦小学校で模擬店や映画会・昔遊びを楽しんだ後、公民館で宿泊体験。秦小児童の8割くらいが参加します。宿泊の翌朝は秦小学校の清掃。朝食の後は、班対抗のゲームで楽しみます。班長

を中心に、チームワークよくゲームが進みます。また、各班には中・高校生等のボランティアが補助に回って参加しています。次は、冬に行われる「餅つき・しめ飾りづくり」です。参加児童を2班に分けて、餅つき体験やしめ飾りをつくりまします。活動中に、秦つ子クラブのボランティア・PTAの方が豚汁づくり。昼食は、からみ餅や豚汁に舌鼓。ニコニコ顔と頬つぺたが落ちそうな顔で溢れます。

秦公民館に集う人は、就学前の子供からお年寄りまで、いわゆる、老若男女。この地域の人たちの「元気づくりの手助け」を目標とし、活動してまいります。

**地域の皆様の生涯学習の公民館として**

本町公民館長 田代 博也

本町公民館は館の無い地域公民館として、平成七年四月

に中央公民館内に併設され、開館しました。対象の範囲は、東は宮町一の一から南へ弥生町まで、西は県道太田・東松山線、南はJＲ線、北は北大通り線内で勤務されている方や住民の方が該当します。これは平成三十年代からの鎌倉町公民館閉館により現在の範囲になりました。今年で開館二十六年目となります。

地域内には、コミュニティセンター・税務署・鎌倉町郵便局・七カ所の銀行・三カ所の寺院・星溪園・夏祭りでの有名な愛宕神社・百貨店・多数の商店街・事業所があります。八つの自治会には約四百七十世帯の人々が生活を営んでおり、便利な住環境の中で諸活動を実施しております。

当館の生涯学習講座は、日本舞踊・健康体操・健康麻雀教室を毎月二回開講し、手芸・編物・袋物教室は、年六回開講しています。

館外ではバスでの名所旧跡・神社仏閣視察研修や、花を育てる会を毎年一回星川橋上で実施し、NHKラジオ体操は子供会と共に毎年八月の五日

間、朝六時半から老若男女が参加し、二カ所に分かれて行っています。またプラネタリウム館の星空の散歩道を、毎年一回鑑賞する月を変えて実施しています。

その他に人権問題研修会を毎年一回実施し、さらに高齢者芸能大会への参加、不定期で新年会やゴルフ大会を開催しております。

以上が主たる活動内容ですが、昨今の新型コロナの影響を大きく受け、事業の実施が大変です。現状では、ワクチンの開発が進んで来ましたが、早期の鎮静化を期待すると共に、魅力ある新講座を開講して生涯学習を続けて行きたいと思っております。

地域の皆様の御支援・御協力なくしては公民館活動が活発になりませんので、重ねてよろしくお願い致します。



迎賓館訪問

# ふなわやうに学ぶ

## 「我が町」の成り立ちを探る

熊谷東公民館長  
岩田 秀夫

当公民館は、熊谷駅を発着とする交通起点／大型店舗や多種類店舗を有し、「うちわ祭」／主会場ともなる商業地区／熊谷市役所・熊谷総合病院・熊谷女子高等学校・熊谷東小学校等の公共施設も有する熊谷を代表する文化地域です。



一方、弥生時代から江戸時代に渡る遺跡が今現在でも熊谷総合病院近隣で発掘され続けている地域でもあります。特に中西地区の遺跡は弥生時代の「竪穴式住居」を筆頭に、戦国時代の成田氏・箱田

氏館跡等時代時代に応じた遺跡が発掘されており歴史ロマンを感じます。



中西遺跡 発掘現場

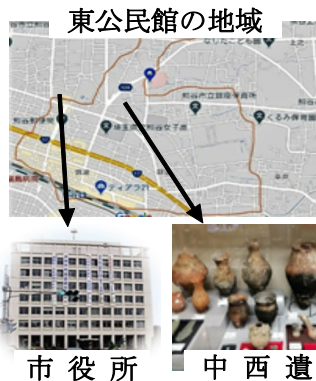


館跡石碑

以上の新旧世代を考察するにつけ「何故、我が町は文化の中心地になったのか？」と歴史をひもとくとたゞなりません。江戸時代の宿場町・明治中期世代の熊谷県発足等熊谷の中心は現在の八木橋百貨店近辺でした。

その頃の中西遺跡周辺は、大地主による農業中心の片田舎だったでしょう。恐らく産業革命の代表格鉄道の出現による「熊谷駅」が誕生したこととで、文化の中心が徐々に現在の我が町を形成して行ったと誰でも想像がつかます。現在東公民館地域の住民は

約一万七千人位で駅周辺はマンション住居が増え、昔は片田舎だったなんて考えられない変貌ぶりです。そんな我が町を是非皆様も訪ねてみませんか？



市役所



中西遺跡

### 大里公民館

#### 「かたり草」から学ぶ

大里公民館長  
山岸 保治

大里は長い歴史と伝統、そして美しい自然に囲まれた田園地帯です。今年、熊谷市となって十五年を迎えました。昭和五十三年、大里公民館の一端として「大里村のかたり草」を発行して語り継がれている民話や伝説を後世に残すことになりました。

それには神社や寺、地藏尊、火防の稲荷、不動尊、庚申

様の由来や、寺に奉納した獅子舞の由来、天王様と御神輿や八木節などの郷土芸能で多くの見物人がくり出したと当時の様子を伝えていきます。その中で八木節傘踊りとして今もなお継承している「手島楽友会」は地域の文化祭や伝統芸能発表会で披露されており、市指定無形民俗文化財です。

荒川の伝説についても数多くあります。当時、土地が低く大雨の都度水害にあつた場所があり、家を新築するたびに高い土地へ移り住み、飛び地になつたことで替津田と呼ばれていきます。

そしてもう一つ、荒川べりの集落で井戸を掘らず生活一切を荒川水を生命の綱としてきたのが天水と呼ばれている地域です。天水の人々は船頭として石垣用の玉石や肥料を運んだりして売っていたようです。その後、村内に流れていた荒川の大改修が実施され、堤内に家を次々と移して現在は昔のままの順序で一列にきちんと並んでいます。

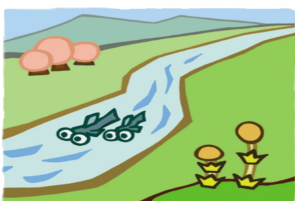
天水と対岸新川とは天水渡しに仮り橋が出来たり、上流

久下渡しに冠水橋が出来たりしたので何百年も続いた天水渡しは終わりました。

その冠水橋は現在、大里屈戸と久下地区に架かる久下橋となり、橋から望む富士山は絶景です。

昭和三十年に架設された冠水橋は木造、全長二百八十メートル、幅はわずか三メートルと橋が狭いので車同士がすれ違える場所は一ヶ所しかありませんでしたので、お互い道を譲りながら交互通行するという光景が毎日見られ、いつか「思いやり橋」という愛称で呼ばれるようになりました。

人を思いやるより自身の身を案じてしまうこのご時世に忘れてはならない昔の暮らし、知恵、不便たる故の様々な工夫は先人たちに学びたいものです。私たちの祖先の歩んできた尊い昔の姿を知って大里を守り育てていきたいと思ふ今日です。





# 学級講座紹介

## みんなが集う公民館

久下公民館長

吉野 武治

久下公民館では、生涯学習講座として「いきいきすこやか講座」「二般講座」を企画しております。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら予定通りの講座が実施できておりません。今回は、昨年度実施した講座をご紹介します。

まず「いきいきすこやか講座」をご紹介します。「地域住民として健康で豊かな生活を送るための認識を深める」をテーマに、年十二回の講座を計画し、地域の多くの高齢者の方にご受講いただいております。開講式のアトラクションでは、四季の歌やわらべ歌、リトミックを取り入れ体と頭と心を使った楽しいひと時を



いきいきすこやか講座  
開講式アトラクション

過ごしました。講座では、地域の歴史、防災、交通安全教室、認知症や人権について学びました。講談や落語、健康体操、館外研修も取り入れ幅広い内容となっております。皆で顔を合わせ学び、笑って元気に過ごせることがいかに幸せか、コロナ禍で改めて



未就学児親子対象  
「人形劇を楽しもう！」

感じます。

次に「二般講座」をご紹介します。「子供や若い世代の交流の場を作り、地域のつながりを広げる」をテーマに、小学生、未就学児親子、若い世代の方が気軽に参加できる単発の講座を企画しております。親子理科工作教室では、皆で遊べるものを工作しました。「遊びの中から学ぶことを楽しむ」をテーマに、子供たちと共に童心に返る親御さんの姿を垣間見ることができました。「人形劇を楽しもう」では未就学児親子を募集し、子供たちに楽しんでもらうこ

と、子育て中のお母さんのコミュニティセッションの場になることを願い企画しました。「ホットコーヒーと和菓子の講座」では、三十代〜七十代の参加者が集まり和気あいあいとした時間となりました。



「コーヒーの  
淹れ方教室」

学ぶ、楽しむ、笑顔になれること、様々な世代間交流を図ることで、人と人とのつながりが持てる公民館を目指してまいります。

### 楽しく学ぶ 講座をめざして

大麻生公民館長

秋山 宏之

大麻生は、南側を荒川に北側を三尻地区や玉井地区に挟まれた柳の葉のように細長い地形です。その中を東西に秩父鉄道や上越新幹線が通り、さらに、国道140号線やバイパスが通り抜けています。また、広瀬大橋や押切橋に

接続する道路が南北に続いており、その中心に大麻生公民館が建っています。

このように交通量の多い道路を通過したり、遠方だったりする方も多く、公民館に来館していただくのは大変なことですが、たくさん学習グループが活動しています。

大麻生公民館では、14のグループがあり、それぞれ熱心に活動しています。ホールの予約は、いつもいっぱいです。

二階の会議室は、多少余裕がありますが、和室は週三回「子育て広場のびのび教室」が利用していますので、混み合っています。

学級講座は、主講座を年に10回、副講座を3回ほど企画しています。内容は、人権問題や健康に関する学習、音楽鑑賞や落語寄席、環境問題や伝統行事に関するものと、年2回の研修旅行等です。

本年度も、様々な企画をしていましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で、全ての企画が中止となっております。

今回、10月22日より、人数を制限して開講予定の講座もあります。早く新型コロナウイルス

ウイルスが収まり、企画した行事が開催されることを願っています。

次に紹介する研修は、新型コロナウイルス感染症の流行以前に実施したものです。

新熊谷市誕生10周年の記念として建立された金子兜太先生の句碑を巡る研修旅行です。

出発は熊谷市役所東の中央公園。次に野原の文珠寺。さらに大里の根岸家長屋門の句碑を回り、昼食は妻沼の道の駅で済ませ、最後に荻野吟子史跡公園のコースです。その後、渡し舟で利根川を往復しました。川風に頬を打たれながら空高く飛ぶグライダーを眺めることもでき、参加者は喜んでいました。最後に妻沼聖天様をお詣りして、帰路に着きました。車中はとても賑やかで楽しく、有意義な研修となりました。

参加者は「次回も研修に参加したい」と言いながら解散しました。



## みんなが幸せになるまち 人権尊重都市熊谷

熊谷市教育委員会 社会教育課 山口修平

今年の初めに、新型コロナウイルス発生のお話を聞いたと思っ  
たら、あつという間に、学校の臨時休校、緊急事態宣言と状況  
が転がるように変わっていきま  
した。マスクが店頭から消え、  
様々なお店が休業し、状況が刻  
一刻と変わっていきました。そ  
のような中で新型コロナウイルス  
の感染者が発生すると、「コロ  
ナ差別」、「コロナトラブル」、  
「感染者狩り」と感染者に対する  
差別が後を絶ちません。死ぬこ  
とや自らが差別を受ける事への  
恐怖心から、人に対しての偏見  
や攻撃性が現れているためと思  
われます。これらを防ぐために  
は、科学的根拠に基づいた新型  
コロナウイルスに関する正しい  
知識と、人に対する思いやりが  
必要です。知識と思いやりで、  
この難局を乗り切りましょう。

新型コロナウイルス感染者に  
対する差別以外にも私たちが取  
り組まなければならない人権課  
題があります。最近、話題になっ

ている人権課題を2つ紹介しま  
す。

1つ目は、子どもの人権に関  
わる「いじめ」です。今年に入っ  
て、芸能人のいじめの体験が新  
聞記事に多く掲載されました。  
悲惨ないじめの体験を載せると  
共に、多くの方が、「君は悪くな  
い」、「周りの大人にSOSを出そ  
う」、「悪い環境から逃げよう」と  
いじめ被害者へ呼びかけました。  
平成25年に「いじめ防止対策推  
進法」が成立し、第2条にいじめ  
の定義として『一定の人間関係  
の児童生徒が、心理的または物  
理的な影響を与える行為をし、  
心身の苦痛を感じさせること』  
と規定しています。この年から  
いじめの件数は以前の2倍以上  
に跳ね上がりました。理由は、  
発生した事案を法律の規定に則  
り、いじめとして数字に計上す  
るようになったからです。これ  
は、学校が心身の苦痛を感じて  
いる児童生徒に寄り添った結果  
です。いじめは重大な人権問題  
です。いじめは、いじめを受け

た人の人生に永きにわたって影  
響を及ぼします。もし、いじめ  
の事実や、それらしい事を見か  
けたときは、学校にすぐお知ら  
せください。先生方がすぐに対  
応します。

2つ目は、LGBT等の性的少  
数者の人権です。今年に入って  
県内では、同性カップルの関係  
を公的に認める「パートナーシ  
ップ制度」や、お寺で挙げる同性カ  
ップルの結婚式、性的少数者の人  
権を訴えるパレードなど様々な  
出来事がありました。テレビな  
どのメディアでもかつては、お  
笑いとしての扱いや、差別的な  
表現が普通に行われてきました  
が、最近では性的少数者の人権  
に寄り添った考え方が広く一般  
的になり、差別的な表現に対し  
て批判的な意見が主流となりま  
した。

平成27年に文部科学省から「性  
同一性障害に係る児童生徒に対  
するきめ細かな対応の実施につ  
いて」という通知ができました。内  
容は、性同一性障害に悩む児童  
生徒への理解を促すことと細か  
な対応の必要性です。性同一性  
障害の児童生徒は、持ち物、ト  
イレ、プール、着替え、宿泊行

事、制服など性差を感じる出来  
事で苦痛を感じる人が多いそ  
うです。もし、悩みを抱える児  
童生徒がいる場合には、学校に  
ご相談ください。学校がしっか  
りと相談に乗りますので、ご安  
心ください。

この2つの人権課題にも共通す  
ることは、正しい知識と思いや  
りの大切さです。心身の苦痛を  
感じたらそれはいじめになりま  
す。LGBT等の性的少数者の方々  
はありのままに生きることがで  
きず苦しんでいます。正しい知  
識を身に付け、多様な価値観や  
考え方があることを理解できれ  
ば、差別や偏見は生まれません。  
もし、苦しんでいる人がいたら、  
思いやりを持って、手を差し伸  
べ、相談相手など、具体的な行  
動をしてほしいです。

熊谷市は平成16年に明るく住  
みよい地域社会をめざすため、  
「人権尊重都市」を宣言しまし  
た。コロナ禍が終息することを  
願うと共に、正しい知識と思い  
やりで他の人権を守る実践行  
動をすることで、みんなが幸せ  
に暮らせる社会にしていきましょ  
う。

# 熊谷駅の駅弁と掛紙（かけかみ）

前中央公民館長 森田安彦

熊谷駅は、明治一六年七月二八日、上野―熊谷間の日本鉄道第二期線（現在の高崎線）の駅として開業しました。当初熊谷駅は始発・終着駅であり、桜の開花時期には臨時列車が増発され、観桜の人々で賑わいました。

この熊谷駅開業当時、駅前に客待ちの茶店を出し、弁当や五家宝の駅売りを行ったのが、清水藤左衛門（一八八三―一九五二）の清水屋と秋山国次郎の秋山亭でした。日本での駅弁の始まりは諸説あり定まっています。明治一八年七月一六日に宇都宮駅で、白木屋旅館の斉藤嘉平が、握り飯を竹の皮で包み五銭で販売したのが、駅弁の発祥とされています。その後駅弁は、名所案内の

風景等が描かれた掛紙と言われる簡易包装紙で包まれるようになり、近年、レトロデザイン性の高い掛紙を収集する愛好家も増えています。

熊谷駅で売られていた駅弁の掛紙を四点紹介します。

## 一・清水屋「御壽司」



この掛紙は、昭和八年八月三十一日に清水屋が販売した寿司弁当です。秩父連峰を遠方に臨み、荒川の船着場と茅葺屋根の民家が描かれています。

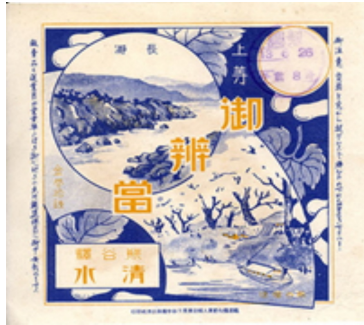


## 二・清水屋「上等御辨當」



この掛紙は、昭和初年に清水屋が参拾銭で販売した御弁当です。右下に長瀨の石畳、左上に熊谷寺が描かれています。

## 三・清水屋「上等御辨當」



この掛紙は、昭和一三年六月二六日に清水屋が販売した御弁当です。左上に長瀨の石畳、右下に熊谷桜土手と荒川に浮かぶ川船が描かれています。

す。

## 四・秋山亭「上等御辨當」



この掛紙は、昭和八年八月三十一日に秋山亭が参拾銭で販売した御弁当です。中央に桜が満開の熊谷桜堤と荒川に浮かぶ川船が描かれています。

これらの掛紙の欄外には、「御注意 空箱を窓から投げてしまわないで腰かけの下にお置き下さい！」と印刷されています。

夏目漱石（一八六七―一九一六）の小説『三四郎』の冒頭部分に、三四郎が熊本から上京する際、購入した駅弁を車内で食べて、空箱を窓から投げ捨てたところ、蓋が逆風に煽られて、窓から顔を出し

ていた女性の額にぶつかってしまったとの記述があります。当時は、空箱を車窓から投げ捨てることは頻繁に行われていたようです。

また若山牧水（一八八五―一九二八）は、大正九年長瀨に向かう途中の熊谷駅で「乗り換えの 汽車を待つとて

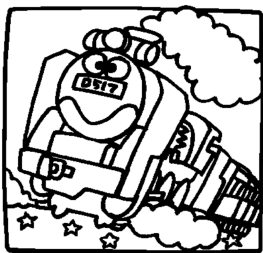
出でて見つ 熊谷土堤の つぼみ櫻を」と詠んでいます。

牧水も、熊谷駅に停車した汽車の車窓からこの駅弁を買い求めたのかもしれませんが。

掛紙は、御弁当を食べてしまえば空箱と一緒に捨てられてしまふものですが、当時の世相を伝える身近な歴史・美術資料です。

（森田安彦・熊谷市役所

総務部納税課長）





# 職員等研修会報告

新しい生活様式による「職員等研修会」が7月28日に江南公民館で開催されました。当日は各公民館1名と参加人数を絞り、また時間短縮の為に事例発表のみの開催となりました。事例発表は第1ブロック代表の熊谷東公民館と、第2ブロック代表の久下公民館が行いました。



山川会長あいさつ

熊谷東公民館は旧4公民館が合併統合した歴史があり、発表は実際の統合推進をされた岩田館長自ら公民館統合の課題、統合に向けたポイントを具体的に説明されました。旧4公民館がそれぞれ事業

- ① 行事洗い出し整理
  - ② 各事業体との協業事業整理
  - ③ 旧公民館の資産整理・廃棄
  - ④ 市報・他の配布方法確認
  - ⑤ 統合後の公民館への人選
- を事前に十分吟味し、新公民館の事業運営方針、各種団体との新しい関係等を導いた経緯を発表されました。



熊谷東公民館の発表

次に新公民館のモットーである「ようこそ！今日も楽しく」 「夢を持って楽しく暮らす」に向けた様々な事業活動・バス利用による研修事例を発表されました。特に公民

館利用者層の拡大策に対して、男の料理教室を年2回開催したり、親を含めたキッズ講座やキッズ向けバス研修を年1回実施するなど、幅広い世代の地域交流・支援を行う事例発表でした。



久下公民館の発表

久下公民館は「地域が元気になる交流の場づくり」をモットーに、生涯学習講座・地域小学校との交流・自治会協賛行事を活動の3本柱として事例発表されました。

生涯学習の主要な一般講座は「子供や若い世代の交流の場を作り、地域のつながりを広げる」を目標に、小学生や未就園児の親子向けに、「親子理科工作教室」「未就園児親子 手作りになぎよう劇」「手作りUFOを飛ばそう」

など盛りだくさんの事例紹介をされました。またその講座案内は小学校を経由して、あるいは地域のお店に掲示するなど、地域密着の広報活動も併せて紹介されました。



熱心な聴講風景

熊谷東・久下の両公民館共に見せ方を工夫した、見応えのあるパワーポイントで発表されており、参加者は熱心に

地域小学校との交流事業としては、久下小2年生「またたんけん」4年生「合唱鑑賞」と世代間交流」等の紹介があり、また自治会協賛行事として「久下の長土手 七福神めぐり」の事例紹介がありました。小学校や自治会と連携した公民館事業が地域の繋がりを益々強くする好事例の発表内容でした。

聴講されたのはもちろん、その発表方法も大いに参考となつた有意義な研修会でした。

(編集委員 事務局)



## 熊谷市公民館まつり

令和3年3月6〜7日に予定されていた、令和2年度「公民館まつり」は新型コロナウイルスの感染拡大が心配される状況を鑑み、「まつりの開催中止」が決まりましたのでお知らせいたします。

## 編集後記

新型コロナウイルスの為に、新しい生活様式に対応した運営、活動に取り組んでいる状況の中、市公連だより第30号を発行する事ができました。各公民館の特色や置かれた環境下で、生涯学習の場、地域交流の拠点としての役割を担う公民館が、人と人との繋がりに大きく関わっている事を再確認できた様に思います。ご協力に感謝申し上げます。